

ウズベキスタン

Republic of Uzbekistan

	2013年	2014年	2015年
①人口：3,158万人（2016年1月1日）			
②面積：44万8,970km ²			
③1人当たりGDP：2,121米ドル (2015年)			
④実質GDP成長率（%）	8.0	8.1	8.1
⑤消費者物価上昇率（%）	6.8	6.1	5.6
⑥失業率（%）	4.9	5.1	5.2
⑦貿易収支（100万米ドル）	1,400	△1,795	△1,742
⑧経常収支（100万米ドル）	1,631	454	△7
⑨外貨準備高（100万米ドル）	22,515	24,140	24,400
⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル）	7,500	8,399	10,521
⑪為替レート（1米ドルにつき、 スム、期中平均、公定レート）	2,094.99	2,310.92	2,567.98

〔注〕③⑦：2014、15年は推計値。⑤：各年12月の前年同月比。⑦：国際収支ベース（財のみ）
〔出所〕①②④～⑥：ウズベキスタン国家統計委員会、③⑧：IMF、⑦⑨⑩：アジア開発銀行（ADB）、⑪：ウズベキスタン中央銀行

2015年のウズベキスタン経済は、マクロ指標上は順調に推移した。しかし、ロシア、中国といった主要貿易相手国の経済減速の影響、主要輸出品目の市況低迷、出稼ぎ労働者の送金減といった負の傾向は続いている。2006年来となる日本の現職首相が来訪し、公的資金協力案件を中心に両国間のビジネスにも動きがみられる。

国際機関の成長見通し、下方修正相次ぐ

ウズベキスタン国家統計委員会によると、2015年の実質GDP成長率は前年と同じ8.1%となった。2007年来、8%を超える高成長を続けている。部門別では鉱工業生産が前年比8.0%増、農業生産6.8%増、建設17.8%増と、マクロ指標上は至って順調に推移している。しかし、主要輸出品目である綿花、金、天然ガスの市況低迷が近年続いていることと、高付加価値商品の代表である乗用車輸出がロシア経済の悪化で大きく減少したこと、さらにロシアへの出稼ぎ労働者からの送金減少が加速（2015年のロシアからの送金額は前年比57.5%減の23億7,000万ドル）したことなどから、外貨事情が一段と厳しさを増している。通貨スムの公定レート（現金ベースの換金に適用される交換所ドル買いレート）は2016年2月末、1ドル2,898スムに対し、市場レート（闇レート）が6,500スムを付け、乖離幅は2.24倍と2014年末（1.36倍）と比べ拡大した。

2015年11月には国際投資フォーラムが開催され、総額124億ドルに上る104件の投資案件に関する覚書が調印された。他方で、同年12月に採択された2016年の投資プログラムでは、政府保証付き外国直接投資受け入れ見込み額を前年比38.7%増の13億3,900万ドルと見積もっている。政府保証枠は2008年からほぼ10億ドル台の規模にとどまっていたが、枠の拡大に踏み切らないと投資を誘致できないほど、政府も自国を取り巻く経済環境の悪化を認識していると推測される。

2016年初の税率改定により、零細企業の統一支払税が引き下げられ、輸出関連企業向けの税率緩和措置が継続

する一方、個人の年金基金料率は引き上げられ、負担感が強まった。

政府は2016年の実質GDP成長率を7.8%（2015年12月採択予算案）としているが、国際機関はいずれも予測を見直している。IMFは2015年10月時点での2016年成長見通しを7%としていたが、2016年4月には5%へ引き下げた。同様に欧州復興開発銀行（EBRD）は7.2%（2015年11月）から6.5%（2016年5月）へ、世界銀行は7.5%（2016年1月）から7.3%（同年6月）へ、アジア開発銀行（ADB）は7%（2015年9月）から6.9%（2016年4月）へ下方修正した。主要貿易相手国の経済減速や主要輸出品目の市況低迷が主因とされる。

議会・政府合同により9月2日のカリモフ大統領の急逝が報じられ、8日、ミルジヨエフ首相が大統領代行に就任した。

輸出入とも大きく減速

ウズベキスタン国家統計委員会によると、2015年の貿易（サービスを含む）は、輸出が前年比8.0%減の124億6,900万ドル、輸入が11.2%減の124億1,700万ドルとなった。貿易収支は前年の4億3,860万ドルの赤字から5,190万ドルの黒字となった。輸出は中国向けが31.9%増加し最大の輸出先国となったが、中国側統計でみると対ウズベキスタン輸入の主要品目である天然ガスは5割以上減少し総額でも20.6%減となった。2014年まで最大の輸出相手国であったロシアは、ゼネラルモーターズ（GM）ウズベキスタン製大宇ブランド自動車の販売が45.7%減の

2万451台にまで落ち込み、輸出相手国としてカザフスタンを下回る3位となった。

2016年6月の上海協力機構首脳会議の機会に、中国の習近平国家主席がタシケントを訪れ、石油・天然ガスおよび輸送における総額2億ドル超の経済協力が合意された。ロシアをはじめとする旧ソ連諸国に代わり、貿易・投資のパートナーとして中国の地位向上が顕著となっている。

■安倍首相が中央アジア歴訪

日本側「貿易統計（通関ベース）」によると、2015年の対ウズベキスタン輸出額は前年比49.8%増の2億5,326万ドル、輸入額は90.4%減の273万ドルとなった。輸出は過去最高額を記録する一方で、輸入は過去最低額となった。輸出は主に円借款によるタリマルジャン火力発電所増設事業向けガスタービンなどの原動機（輸出総額の33.8%）および発電機などの重電機器（22.0%）が牽引した。従来、輸入の大半を占めていた金は2014年に76.8%減となり、2015年は実績ゼロであった。ジュネーブの国際貿易センター（ITC）の貿易統計によると、ウズベキスタンの2015年の金輸出額（18億8,138万ドル）全額がスイス向けとなっている。

日本の公的資金協力案件では2015年10月、タシケント熱電併給所建設事業を対象とした120億円の円借款貸し付け契約が調印された。これは2014年11月に交換公文（E/N）が締結された電力セクター・プロジェクト・ローンの具体的な案件の一つである。新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の実証事業では2015年7月、丸紅ユティリティ・サービスと川崎重工業が分散型中・小型ガスタービン・コージェネレーションシステム普及調査を完了し、今後のビジネス獲得を目指す。

2015年7月、いすゞ自動車は、同社ブランドの小・中型バスとトラックを生産するサマルカンド・オートモビル・ファクトリー（SAF）の株式を取得した。SAFの株主構成はウズアフトサノアト（58%）、アサカ銀行（26%）、伊藤忠商事（8%）、いすゞ自動車（8%）となった。株式取得を通じてSAFの商品開発への関与を深める。8月には三菱商事と三菱重工業が大規模アンモニア・尿素肥料製造プラント建設プロジェクトの設計・調達・建設・試運転（EPCC）契約を受注することが決定した。受注額は9億ドルで、国際協力銀行（JBIC）が三菱東京UFJ銀行などとの協調融資により415億4,400万円を限度とする輸出用バンクローンを供与する。

10月には安倍首相がウズベキスタンを含む中央アジア諸国を歴訪した。10月25日、タシケントにおいて首相およびカリモフ大統領の出席の下、ジェットロなどが日本・ウズベキスタン・ビジネスフォーラムを開催した。

表1 ウズベキスタンの主要国別輸出入

（単位：100万ドル、%）

	輸出			
	2014年 金額	2015年 金額	2015年 構成比	2015年 伸び率
中国	2,124	2,802	22.5	31.9
カザフスタン	2,488	1,849	14.8	△25.7
ロシア	2,546	1,821	14.6	△28.5
トルコ	966	790	6.3	△18.2
アフガニスタン	601	445	3.6	△26.0
イラン	318	318	2.6	△0.1
韓国	160	176	1.4	10.5
タジキスタン	153	160	1.3	4.5
フランス	141	151	1.2	7.3
バングラデシュ	72	131	1.1	81.1
日本	16	10	0.1	△34.6
合計（その他含む）	13,546	12,469	100.0	△8.0
	輸入			
	2014年 金額	2015年 金額	2015年 構成比	2015年 伸び率
ロシア	3,313	2,635	21.2	△20.5
中国	2,397	2,258	18.2	△5.8
韓国	1,876	1,563	12.6	△16.7
カザフスタン	1,009	848	6.8	△16.0
ドイツ	622	489	3.9	△21.4
トルコ	540	413	3.3	△23.5
ブラジル	258	315	2.5	22.2
ウクライナ	415	269	2.2	△35.2
リトアニア	91	264	2.1	189.5
インド	249	261	2.1	4.7
日本	175	245	2.0	40.5
合計（その他含む）	13,984	12,417	100.0	△11.2

〔注〕 サービスを含む。財は通関ベース（輸出はFOB、輸入はCIF）、サービスは国際収支ベース。

〔出所〕 ウズベキスタン国家統計委員会

表2 ウズベキスタンの主要品目別輸出入

（単位：100万ドル、%）

	輸出			
	2014年 金額	2015年 金額	2015年 構成比	2015年 伸び率
エネルギー製品	3,110	3,015	24.2	△3.1
サービス	3,030	3,061	24.6	1.0
綿繊維	1,048	736	5.9	△29.7
鉄鋼・非鉄金属	978	824	6.6	△15.8
機械・設備	546	159	1.3	△70.8
食料品	1,676	1,316	10.6	△21.4
化学品・プラスチック製品	644	613	4.9	△4.8
その他	2,514	2,744	22.0	9.1
合計	13,546	12,469	100.0	△8.0
	輸入			
	2014年 金額	2015年 金額	2015年 構成比	2015年 伸び率
機械・設備	5,522	5,027	40.5	△9.0
化学品・プラスチック製品	2,230	2,108	17.0	△5.4
食料品	1,510	1,585	12.8	5.0
鉄鋼・非鉄金属	1,114	919	7.4	△17.4
エネルギー製品	866	725	5.8	△16.2
サービス	1,120	954	7.7	△14.8
その他	1,624	1,098	8.8	△32.4
合計	13,984	12,417	100.0	△11.2

〔注〕 〔出所〕 とも表1に同じ。

表3 ウズベキスタンの対内直接投資の推移
＜実行ベース、ネット、フロー＞

（単位：100万ドル）

	2012年	2013年	2014年	2015年
対内直接投資額	563	686	751	n.a.

〔出所〕 国際貿易開発会議（UNCTAD）